

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしながら、成城高校独自の強みを活かし、社会で自律し自立することで社会に貢献できる人材を育成する学校

- 学びを大切にし、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と安心で安全な学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

## 2 中期的目標

1 エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たすとともに、成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取り組み(1年生)

(1) ESの基本である学び直し学習を着実にを行うための取組み(1年生の授業について)

ア 学習効果をあげるための工夫

- ・0限目授業への出席を強力に進める。
- ・各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。
- ・「わかる授業」「楽しい授業」を実現するためアクティブラーニングの視点に立った、授業の取り組みを進め学ぶ意欲と姿勢を育てる。
- ・遮光カーテン設置により、「タブレット端末の活用」「電子黒板の活用」を強力に進めることで、居眠り防止等授業への集中度を高める。
- \*0限目授業への出席者数を平成28年度も維持(平成27年度1年生は95%)し、それを継続する。
- \*タブレット端末を活用した授業を28年度は30%の教員が実施(平成27年度は教員の約15%が活用)する。
- \*電子黒板使用率を平成28年度は全授業(実習系・実技系以外)の50%(平成27年度は電子黒板未設置)とする。
- \*年度末学力調査で、平均点75点以上とする。

イ コミュニケーション力の向上

- ・2学期末に、外部から有識者を招聘し公開プレゼンテーションを実施、外部審査員による評価・講評会を行う。

(2) 希望進路実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み

ア 社会で役立つ資格等を取得するための取組み

- ・1年生全員に実用英語検定・漢字検定等の1つ以上を受験させ、またそのための学習の機会を設ける。
- \*平成28年度1年生の実用英語検定または漢字検定の3級・準2級合格者のべ80名(平成27年度は全学年合計37名合格)をめざす。

イ 数学・英語の進学講習の実施

- \*平成28年度は1年生対象の進学講習を週4時限以上(平成27年度は4時限)実施し、数学・英語とも各40名の生徒の参加(平成27年度は15名)を目標とする。

2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導

- ・支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム(配慮を要する生徒個々に組織した、担任を中心とした小組織)の強化

イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

- ・あらゆる機会をとらえた校長による生徒への訴えを継続する。
- \*中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持(平成27年度入学生は全員が改善)
- \*停学人数(平成27年度は前年度より22%減少)と総停学日数(27年度は前年度より29%減少)を28年度前年比10%減少させる。

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化

- ・遅刻・欠席防止指導強化
- ・遅刻・欠席時の保護者からの提出される証明文書をプリントからノート形式に変更することで、家庭との連携を一層強化する。
- ・入学式での部活動勧誘や体育祭・文化祭等の行事運営における生徒会の関わり強化などにより、生徒の自主性の育成を図る。
- \*平成28年度総遅刻回数15%減(平成27年度は前年度に比べ22%減少)とする。欠席日数15%減(平成27年度は前年度に比べ32%減)とする。
- ・アルバイト制限維持

イ 部活動の活性化

- \*全学年生徒対象部活動紹介を継続実施し、新入生全員の体験入部3日を維持
- \*校長による日々の部活動練習状況の巡回観察と公式試合応援の継続
- \*部活動加入率(平成27年度58.9%)平成28年度65%を目標とする。

ウ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備

- ・職員室の整理整頓と「机上の本立て1段のみ」の継続。「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続
- ・生徒の自己有用感と高校生としての自覚をもたせるため、英語の授業中以外、教員が生徒に対して(姓でなく)名前で呼ぶことを原則禁止とし、ほめるときには「ありがとう」の言葉を添えるように努める。

\*保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成27年度は85.8%)を28年度は90%とする。

\*生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答(平成27年度は63.4%)を平成28年度は80%とし、平成30年度には90%以上をめざす。

\*中退率維持(平成27年度は0.7%)

3 進路保障

(1) 学力充実

- ア 0 限目学習の 2・3 年生参加者増加
  - \* 0 限目学習の参加者を 2 年生・3 年生各 90%・85% (平成 27 年度は、2 年生・3 年生各 85%・50% の生徒が参加) をめざす。
- イ 公開授業・研究協議の維持
  - \* 公開授業 65 講座 (平成 27 年度約 58 講座) とし、また全教員参加グループワーク型研究協議を維持する (平成 27 年度は年 3 回実施)。
- ウ 各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。
- エ 「アクティブラーニングの視点に立った授業」の実践・充実
  - \* 「100%講義型一斉授業」の廃止。生徒の主体的・能動的学習スタイルを確立する。
  - \* 生徒対象学校教育自己診断で、「授業が充実している」回答を平成 28 年度は 65% とし平成 30 年度には 80% (平成 27 年度は全学年合わせて「充実している」58.2%) をめざす。

(2) 進路指導体制強化による進路未決定者の減少

- ア 進路指導部主導型の進路指導体制構築
  - ・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、看護医療の 4 つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。
  - \* 28 年度は、難関大学進学 3 名 (平成 27 年度は 0 名)、保育士・看護師・栄養士を標榜する短大進学 8 名 (平成 27 年度は 4 名) とし、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学 8 名 (平成 27 年度 4 名) とする。
- イ 優良企業就職実現のための取組み強化
  - ・学校斡旋就職希望者への指導強化
  - ・関西に本社をもつ優良企業の求人を 2 社以上増やす。
- ウ 資格取得・検定試験合格に向けた取組み維持
  - ・生徒・保護者への周知・指導強化
  - \* 資格取得者・検定試験合格者を平成 28 年度はのべ 500 名 (平成 27 年度約 400 名) とし、その後 3 年間年 3% 増をめざす

\* 進路未決定卒業生率 (平成 27 年度は 2%) を 28 年度以降維持する。

4 平成 29 年度本校近隣の高校が ES として再編されることに向けた情報宣伝活動の強化と、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり

(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保

- ア 「チーム成城」での組織的な情報発信
  - ・学校訪問数維持
  - \* 中学校進路指導主事訪問 50 校 (平成 27 年度 39 校) を組織的に取組み強化しそれを維持する。
  - ・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取組み、経験の浅い教員にも経験を積ませる。
  - \* 中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 7 回開催し、計 2000 名の参加をめざす。(平成 27 年度は生徒・保護者向け 10 回約 1800 名、中学校教員向け等 3 回合計 80 名参加) を維持する。
  - \* 中学校 PTA 協議会主催進路説明会 12 回・中学校での生徒・保護者対象説明会 6 回・中学校等での教員対象説明会 4 回 (平成 27 年度は各 11 回・9 回・7 回) とし、それを維持する。
  - ・28 年度より新たに「情報処理部 (3 名)」を創設し、校務処理等とともにホームページの充実を図る。
  - \* 平成 29 年度入学者選抜において入学者選抜志願倍率を 1.8 倍 (28 年度入学者選抜は倍率 2.18 倍) としそれを維持する。
- イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり
  - ・地域の諸機関・事業所との交流・連携
- ウ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。
  - \* 文化祭・体育祭来場者数 (平成 27 年度は 814 名) を平成 28 年度は 1000 名とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>—生徒—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体を通じて                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通して肯定的な意見がでた。</li> </ul> </li> <li>○ 「ICT活用している」について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の ICT 設備の充実 (全クラスホワイトボードに変更済) とともに教員への研修や活用研究の推進が図られている。(77.8%)</li> </ul> </li> <li>○ 「家庭学習の機会」                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習や学習習慣を身につけるよう授業力向上の一環として推進した。5.1% 増加したが、全体として低い。朝の 30 分授業のモジュール形態の特性や、2, 3 年生の科目の多くが実習を伴うため、全体としては低いが、5 教科を中心とした「数理・人文系列」を中心に、生徒の家庭での学習習慣を身につけさせると取組みを今後も継続しさらなる向上をめざす。(41.2%)</li> </ul> </li> <li>○ 「学校行事への工夫」                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校敷地内が建替え工事のためグラウンドが狭く、校舎の使用も制限が多いため生徒からの要望が実現しにくいためと考えられる。(−5.1%) 次年度はさらにグラウンドが工事関係で狭まり一層の不自由さを増す。新たな発想と生徒の頑張りで乗り切りたい。</li> </ul> </li> </ul> <p>—保護者—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体として                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に昨年より若干低めの評価であった。昨年より 20% 回収率が向上したため、学校に関心を持っている保護者が増えたが、その方々からの期</li> </ul> </li> </ul>	<p>【平成 28 年 6 月 16 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ES となり、従来の生徒と様子が変わってきたように感じる。その変化も個性としてみるのか。学校薬剤師として授業に入ることもあるが、数年前に比べ発想豊かな生徒が少なくなったように感じる。小学生も見てきたが繰り返しによる学習の定着は 2 割程度しかない。</li> <li>○ ES とは学びなおしの学校ではなく、基礎の必要性を感じさせる場所である。そのために、基礎の繰り返しだけではなく、困難な課題にも挑戦することで基礎・基本の重要性を体験させる</li> <li>モジュール授業は発言の機会が多く、「静かな学校」を求める生徒にとっては厳しい状況にあるという意見もある。ES は学びなおしではなく、学ぶ喜びを感じる学校であることを強調した。</li> <li>ES の「成城」に入りたい → 高倍率による断念。</li> <li>次の課題の前に現状の課題を処理する必要がある</li> <li>◆ モジュールの展開方法について 2 分割してはどうかというご意見をいただいた。</li> <li>○ 教科及び課題の特性として 3 教科一斉授業は厳しい。授業力向上のため 6 月 30 日岡山県久高高校へ 3 名 (ジグソー法の授業研究) 派遣します</li> <li>○ 40 名授業を受け持ち、多くの生徒、多くの個性を実感している</li> <li>論理トレーニング (工業) では、想像したものを具体化する</li> <li>生徒自身を見て、教師の側からも新たな発見がある</li> <li>○ 家庭科の授業の中で、自分の意見を人に伝える「親の役割」を授業で行っているが、生徒に幼さがあり「伝え方」も試行している状況である。</li> </ul>

待を実現できていない部分があると考えられる。保護者全体へ情報発信するとともに家庭との連携を密にし、生徒に対する要望・悩みなど細やかな対応ができる組織作りを進める。

学校へ期待することの上位は「進路指導」「学習指導」「対人関係」「生活指導」であった。これらの期待に応えるよう努力する。

○ 「規律指導」

・ルールを守ることの大切さを訴え、厳しい指導に評価を得た。(90.9%)  
遅刻や欠席の事前連絡、駐輪場の整理整頓、服装の乱れの指導は、即効性はないが、地道な指導継続が唯一の方法と理解し保護者と一枚岩で継続する。

○ 「キャリア教育」

・進路指導部が計画的を立て、学年団が検証しながらそれに沿って指導する形式が確立できたため、一定の成果が上がった。(85.1%) 生徒の夢実現に、しっかり寄り添い支援していく体制を強化する。

－教員－

○ 全体を通じて

・グラウンドの工事など制約が多い中で、生徒のために工夫・改善のための意見交換がなされている。(回収率+20%) 一方で、「日常的な意見交換を行う機会がない」との意見があり(-6.1%) 多忙な中、情報の共有など効率よく業務ができる組織作りを検討していく必要を痛感する。

◆小学校の学習支援での話

学ぶ楽しみを知ると自発的に課題をやってくるようになった

◆入学前に学校説明会に3回来た

入学前に校内の様子を見て大変気に入った。現状の学校にも大変満足している  
過去(7~8年前)に比べ、生徒が学業に非常に前向きである。

○本校の教育活動に非常に肯定的なご意見をいただいた。

工業、CS、ES 学校の継続性ありよい。

◆学校の様子について

○勉強に対する苦手意識を持たないように、勉強を楽しむように方法を考えていく  
生徒の変化が感じ取れる。

◆倍率の向上 → 筆圧が上がっている

○成城でいい → 「成城がいい」へと変化してきた。ありがたいことである。

◆地域との交流として、他校では地域のトイレ清掃を行っている学校もある

○過去の地域連携を報告

・5年前青パトの製作、地域の小学生や保育園との野菜工場の見学など

・保育園児の体育祭、文化祭の見学

・諏訪荘との交流、市民講座など

◆ハロー赤ちゃんなどの親体験に取り組んではどうか。他者との交流

◆今後もよいものを残し、新しいものへ挑戦してほしい

◆規範意識

自転車保険の加入義務が必要になり、自転車免許(講習修了証)を検討してほしい。  
との提案をいただいた。

○生活指導部の交通安全講習会にて、自転車の安全な乗り方、乗車マナーについて  
周知する。

【平成28年11月24日】

◆偏差値が上がったというが、エンパワメントで面接などで入学した生徒は授業についていけているのか?また、そのような生徒に何か取り組みをしているのか?

○現1年生については授業についていけないという報告は聞いていない

モジュールや放課後残った学習、月1、2回の補習などを行っている

生徒の学ぼうとする姿勢を育む、保護者・家庭の協力が大切

「わからない」ということを恥ずかしがらず、聞ける環境であることが強み

◆サポートチームとはどんなものか?

○固定メンバーではなく、当該生徒に関わりのある教員等で構成する

◆実技系科目をとっている生徒と文理系科目をとっている生徒では、宿題の量に差が出るのでは?

○履修科目によって宿題の量に差はあるがやむを得ない。

◆アルバイトの制限維持とは?就職機会などにつながると思うのもつたいないと感じる。

○学校の規則、学業などに影響を与えない範囲でアルバイトを行うのは構わない

◆アクティブ・ラーニング実施100%とは?

○講義形式の授業ばかりにならないように、どの科目でもアクティブラーニングの視点を大切にするという主旨

◆先進校への派遣とあるが、どのような学校なのか?

○協同学習、アクティブ・ラーニングを早くから実践し、実績をあげていた学校

(3) 協議

・学校教育自己診断の結果について

◆生徒質問の設問5と6について、気軽に相談できる先生がいない生徒が2割いる。科目数が多いため、担任が授業をもっていないということも関係しているのでは?また、科目数を減らすことなどは考えていないのか?

○担任は少なくともHRや総合の時間で関わっているのに、関わりがゼロということはない

○選択肢が多すぎるかもしれない。科目数は定員に達しない科目は開講しないなど、減らす取り組みも行っている

◆生徒質問の設問3について、指導について納得できていない生徒が5割いる。生徒から提案し、変えていけるという取り組みも必要では?

○本年度体育祭では、生徒のアンケートから提案された応援合戦、騎馬戦を実施した生徒たちには、自分たちの意見をくみ取ってくれているという感覚はあると思われる。

但し、生活指導の厳しい規律に慣れていない生徒、特に1年生の評価が厳しい。

【平成29年3月8日】

－報告－

○成城高等学校支援教育推進委員会が平成28年度文部科学大臣教職員組織表彰を受賞

○写真部が全国1位獲得。

○授業アンケートより

・予習復習をさせる取り組み、一層の授業改善への取り組み、講義型授業からの意

	<p>識改革が急務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ モジュール授業については、三教科とも生徒の評価は高い 協議会からの意見</li> <li>◆ 理科の実験プリントは非常に工夫されていた</li> <li>◆ モジュール授業が数学・英語において成果を上げだしたようだ</li> <li>◆ 協同学習やグループ学習において、人前で話すことを苦手とする生徒が、どのように役割を果たすのか。</li> <li>○ 役割分担を事前に決めて、発表しないで済む役割、たとえば「ペーパーにまとめる」とか「タイムキーパー」などで、自己有用感が持てる。</li> <li>◆ 進路保障について報告を聞きたい。</li> <li>○ 前年より生徒は高みを目指して、あきらめず頑張りだした。</li> <li>◆ 資格取得状況について</li> <li>○ 全体は517名で昨年を大きく上回った。商業系列も商業科のある学校とも引けを取らない。</li> <li>◆ 学習支援の支援者は足りているのか</li> <li>○ 不足している。地域の協力をお願いする。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクール(☑)としての役割を十分に果たすとともに、 (1年生) 成城高校がめざす☑としての成果をあげるための取組	(1)ES の基本である学び直し学習を着実に進めるための取組み(1年生の授業について) ア 学習効果をあげるための工夫	(1) ア・0 限目授業への出席を強力に進める。 ・各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。 ・「アクティブ・ラーニング 100%実施」  ・「タブレット端末の活用」強化  ・「電子黒板の活用」強化を強力に進める。	ア ・0 限目授業への出席者数維持(平成 27 年度 1 年生 95%) ・すべての授業にペア学習など、生徒の主体的学習活動を保証する。 ・タブレット端末を活用した授業を 30%の教員が実施(平成 27 年度は教員の約 15%が活用) ・電子黒板使用率を全授業の 50%(実習系・実技系以外)で実施(平成 27 年度は電子黒板未設置) ・年度末学力調査で、平均点 75 点以上とする。	・0 時間目の出席率 (96%) (○)  ・個々の教員のタブレット使用率 (19%) PC を含むと 30% (△)  ・南館普通教室すべてを黒板からホワイトボードへ変更した。映し出される映像、文字が一層鮮明になり、生徒へは好影響を与えた (○)  ・学力調査 71.8 点 (○)
	イ コミュニケーション力の向上  (2) 希望進路実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み ア 社会で役立つ資格等を取得するための取組み  イ 数学・英語の進学講習の実施	イ・2 学期末に、外部から有識者を招聘し公開プレゼンテーションを実施、外部審査員による評価・講評会を行う。  (2)  ア・1 年生全員に実用英語検定・漢字検定等の 1 つ以上を受験させ、またそのための学習の機会を設ける。	イ 評価指標なし  (2)  ア・平成 28 年度 1 年生の実用英語検定または漢字検定の 3 級・準 2 級合格者のべ 50 名(平成 27 年度は全学年合計 37 名)	・漢検 3 級 12 名 準 2 級 2 名 2 級 1 名  ・英検 2 級 1 名 準 2 級 8 名 3 級 42 名 合計 51 名 (◎)  ・講座としては実施できず、個々の放課後対応となった。1 年生はモジュール授業でのクラス変更があるため、定着できなかったように思われる。キャリア教育と共に推進し、次年度は充実したものにしたい。(△)

<p>2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり</p>	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応 ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導  イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化 ア 学校生活を大切にさせるための取り組み強化  イ 部活動の活性化  ウ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備</p>	<p>(1) ア・個々の生徒に応じたきめ細かな指導 ・支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム(配慮を要する生徒個々に組織した、担任を中心とした小組織)の強化 イ・あらゆる機会をとらえた校長による生徒への訴えを継続する。</p> <p>(2) ア・遅刻・欠席防止指導強化 ・アルバイト制限維持  イ ・生徒会を中心とした部活動活性化促進  ウ・職員室の整理整頓と「机上の本立て1段のみ」の継続。「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続 ・生徒の自己有用感と高校生としての自覚をもたせるため、英語の授業中以外、教員が生徒に対して(姓でなく)名前で呼ぶことを原則禁止とし、ほめるときには「ありがとう」の言葉を添えるように努める。</p>	<p>ア 指標なし  イ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持(平成27年度入学生は全員が改善) ・停学人数10%減(平成27年度は前年度より22%減)と総停学日数10%減をめざす。  (2) ア・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各15%減(平成27年度は前年度に比べ各22%減・32%減)  イ ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。(全員体験入部2日) ・校長による日々の部活動練習状況の巡回観察と公式試合応援の継続 ・部活動加入率65%(平成27年度58.9%) ウ 評価指標なし  ・保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度90%(平成27年度85.8%) ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答80%(平成27年度は63.4%) ・中退率維持(平成27年度は0.7%)</p>	<p>・今年度もきめ細やかな指導を行った。通学範囲が前年度に比べて一層広範囲になったことで教員の負担は多くなったが、学年を中心としたサポートチームがSSW・SCとの連携を密にできたことで機能した。(○) (h28年度 文部科学大臣表彰 受賞)</p> <p>・不登校が改善できた生徒24名。(24/27) 89% (○)</p> <p>・停学者人数は昨年度と同じであった (○)</p> <p>・総遅刻回数 54%増 ・総欠席日数 30%増 (△)</p> <p>・部活動参加生徒数 一年 156名 二年 111名 三年 103名 平成28年度部活動加入率 (62%) (◎)</p> <p>ウ 作業効率も悪くなり、ミスにつながる。充分とは言えず、次年度も引き続き指導していく。(△)</p> <p>・保護者対象の学校教育自己診断において「学校に対する満足度84%」ほぼ横ばいであるが、目標達成には至らなかった。次年度はぜひ達成できるよう、しっかりと情報発信していく。(△) ・生徒のアンケートもわずかながら下がり、目標達成には至らなかった。 「成城高校に入学してよかった62%」(△) ・中退率は0.7%と引き続き低い水準を維持できている。入試前の広報活動も功を奏し、ミスマッチングの入学者がほぼ皆無である。(○)</p>
--	---	--	--	--

<p>3 進路保障</p>	<p>(1) 学力充実 ア 0 限目学習の2・3年生参加者増加 イ 公開授業・研究協議の維持 ウ 各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。 エ 「アクティブラーニング」の積極的実施</p>	<p>(1) ア・27年度の1・2年生への指導を継続する。 イ・「新人育成プロジェクト」が中核となった取り組みの継続 ウ・各教科で宿題を課すことについて、全教員の実施状況チェック ・授業以外の家庭学習等の時間に関する生徒対象の継続アンケート エ・先進校に習うため教員の派遣研修実施</p>	<p>(1) ア・0 限目学習の参加者を2年生・3年生各90%・85%(平成27年度2年生・3年生各85%・50%の生徒が参加) イ・公開授業65講座(平成27年度約58講座)、また全教員参加グループワーク型研究協議維持(平成27年度年3回実施) ウ 評価指標なし エ・100%講義型授業を廃止し、ペア学習・グループ学習当の有効的な実施 ・生徒対象学校教育自己診断で、「授業が充実している」回答65%(平成27年度は全学年合わせて「充実している」58.2%)</p>	<p>・(遅刻者数+欠席者数) / 生徒総数 × 授業日数で評価すると 2年94.2%、3年92.6% (◎) ・新人育成プロジェクトは十分に機能したとは言い難い(△) 公開授業講座数 58 講座 研究協議実施 3 回 ウ モジュール授業や、エンパワメントタイムなど、自宅での予習や、自宅学習課題の設定しにくい面もあり、各教科とも十分とは言えない (△) エ ・教員は一斉授業オンリーの限界を感じ、個々に工夫している。次年度に向けて、大学研究者との連携を準備し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践にむけ研修し、成城のスタンダードの確立に向けて取り組む。(○) ・生徒対象の学校教育自己診断において「授業が充実している」が59.1%で微増であった。目標達成に向けて改革を進める。(○)</p>
	<p>(2) 進路指導体制強化による進路未決定者の減少 ア 進路指導部主導型の進路指導体制構築 (3年間の進路指導計画作成) イ 優良企業就職実現のための取り組み強化 ウ 資格取得・検定試験合格に向けた取り組み維持</p>	<p>(2) ア・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、看護医療の4つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。 イ・学校斡旋就職希望者への指導強化 ・関西に本社をもつ優良企業の求人をもつ2社以上増やす。 ウ・生徒・保護者への周知・指導強化</p>	<p>(2) ア・難関大学進学3名(平成27年度0名)、保育士・看護師・栄養士を標榜する短大進学8名(平成27年度4名)、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学8名(平成27年度4名) イ 評価指標なし ウ・資格取得者・検定試験合格者のべ500名(平成27年度400名) ・進路未決定卒業生維持(平成27年度2%)</p>	<p>ア、関関同立 0名 産近甲龍 1名。 センター試験受験者 1名 進路指導部と学年団の連携を一層強化し、次年度はセンター試験受験者数と産近甲龍受験者数を、生徒の意欲の指標とし、合格者数とともに向上させる。(○) イ、優良企業の新規開拓は行えなかった。しかし、例年以上に面接練習や職場見学は盛んになり、大阪市職員の合格者も出た。(○) ウ、資格・検定合格者総数 541名 ・進路未決定卒業生 3名 (1.6%)</p>

<p>4 平成二九年度本校近隣の高校がESとして再編されることに向けた情報宣伝活動の強化と、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保 ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <p>イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>(1) ア・学校訪問件数維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会や地域における説明会への組織的な取り組み。</li> <li>・教員自らが自校の強みを理解し、中学生とその保護者へアピールすることで課題発見の機会とし、今後の取り組みを考える。</li> <li>・HP の充実</li> </ul> <p>イ・地域の諸機関・事業所との交流・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。</li> </ul>	<p>(1) ア・中学校進路指導主事訪問 50 校 (平成 27 年度 39 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員向け学校説明会を 7 回実施し、2000 名の参加者を募る。(平成 27 年度は生徒・保護者向け 10 回約 1800 名、中学校教員向け 2 回・学習塾関係者向け 1 回合計 80 名参加)</li> <li>・中学校 PTA 協議会主催進路説明会 12 回・中学校での生徒・保護者対象説明会 6 回 (平成 27 年度は各 11 回・9 回)</li> <li>・平成 29 年度入学者選抜において入学者選抜志願倍率 1.8 倍 (28 年度入学者選抜 2.18 倍)</li> <li>・行事等の実施後速やかにアップする。(翌日アップを目標)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。(平成 27 年度実績なし)</li> <li>・文化祭・体育祭来場者数 1000 名 (平成 27 年度は 814 名)</li> </ul>	<p>ア・進路指導主事訪問 実施せず、本校に招いて説明会を実施した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は 877 名。ES の内容の周知が行き届いた。平成 28 年度の入学者選抜の競争倍率が 2 倍を超えたことで、敬遠されていることもある。(△)</li> <li>・PTA 協議会主催進路説明会 9 回 (○) 中学校での生徒・保護者説明会 12 回 (○)</li> <li>・入学者選抜志願者倍率 1.66 倍</li> <li>・十分に実践できている。(◎)</li> </ul> <p>諏訪壮ふれあい祭りに吹奏楽部が参加した。その後、活動が衰退しているが、次年度に向けて活性化をめざす。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭 156 名、文化祭 874 名 合計 1030 名。体育祭では、昨年度のアンケートを基に、生徒の実施希望を最大限生かした。文化祭は天候が悪く心配したが、予想を上回る方々に来ていただいた。初日を全生徒が体育館で全クラスの催し物を見ることができた。二つの行事の大成功は下級生に、次年度への良い刺激となったことは間違いない。(◎)</li> </ul>
--	--	--	--	---